

ネイチャーセンター ガイド (115)

本気であそんだか？夏休み！！

勉強も大事だが、遊ぶことも大切な夏休み。そして、親や地域の大人たちからたくさんの遊び(知恵)を教わる絶好の機会。

地域活動が減少傾向のなか、自然と触れ合う機会を創出する地域が増えてきたような気がします。内容はさておき、舞台を自然に移し、親と子どもと自然が触れ合う。親と子、地域の大人たちとの触れ合いの原点を見たような気がします。

そこでは、子どもたちに考える機会を与えることができたでしょうか。子どもに考えさせるには、大人も共に考えていかななくてはなりません。大人が考えなければ、子どもも考えません。大人の姿を子どもたちは見えていますから、手本とは怖いものです。子どもはすべてを真似してしまいます。

「大人が変われば子どもも変わる」という標語がありますが、大人はどこを変えたらいいのか、分かっていないのではということに気がしました。自分を変えることはとても難しいことですが、でも変えなくてはいけないのです。自分を変えるには、学び、考えることです。子どもを変えるには、何が良くて、何が悪いのか、分別を付けてあげることです。過剰すぎてもダメです。そのあたりの尺度やさじ加減が難しいのですが、でも、聞けばいいんです。誰かに。

知らないことが恥ではなく、聞けないことが恥です。聞く姿を子どもに見せれば、子どもも自然と聞きはじめます。子どもは親のサポートなくして成長しません。食事、睡眠、態度、言葉遣い、成長のパロメーターはすべて親です。親のサポートを受け成長した子どもは社会で確かめ始めます。「これでいいのか？ダメなのか？」幼少期の毎日がこの確認行動です。ですから、8歳児までの子育ては重要なのです。付け加えて、この年齢までの体を使った遊びが心に染み渡ります。いつまでも心に残るのです。だから本気で遊ぶのです。

物を与えて心を満足さようとしていませんか？でも、決して満足なんかしません。今の遊

び道具は考える要素が少なすぎるから、すぐに飽きてしまいます。お子さんが飽きっぽいのではなく、売るために簡単な作りをしていて、購買意欲を掻き立てているだけです。それを買って与えるのは分別が付いていない証拠です。

もの心つく前から、安易で考えなくていいおもちゃに包まれてきているので、考えなくなるのは当然。与えられるのが当たり前。それが普通になっているんです。買い与えておけば、親は安心かも知れませんが、実は、苦勞するのは子どもです。子どもはその場の満足感だけで、心に染み渡る満足は得られていないのです。この行為を10年続けたらどうなるでしょう？応用力は鍛えられませんか、短絡的に物事を解釈してしまいます。考えられなくなるのは、当然。「無駄か、無駄じゃないか？」「意味あり、無意味」でしか、価値基準を定められない子どもが、実際にいるんです。いつまでも、親や他人が何かをしてくれるのを待っています。

親や地域の大人との関わりは、目には見えなくても、本当に重要です。どう心を満足し、努力させ、根性を出させ、忍耐をつけるのか。日々の暮らしこそ、学びの場です。「雑巾洗いました」と持ってきます。次に発展しないのです。「干す」という行動に移行していかないのです。「コップ割っちゃいました」「掃除」「謝る」という行動に連鎖していかないのです。

日々の暮らしの中での関わりが人格をつくります。暮らしの中で、何かハプニング、トラブルは必ず起きるもの。その時がチャンスです。何をすべきか、何を一番最初にすべきか、次に何をしなければならぬのか、親が教えなきゃだめです。親の仕事です。毎日横に、そばにいてあげられるのは親ですから・・・。

「仕事で・・・」なんて言葉が帰ってきそうですが、仕事と子どもどっちが大事。家庭を理解しない職場を非難しますし、残業当然の社会に愕然とし、子育て支援のあり方にも憤りを感じています。

心の成長、心の教育に力を入れなければ、この町はどうなることか。今しなければならぬこと、それを考えるのが大人の役割。

連絡・問合せ先 ☎(45)6222

宝の山ふれあいの里ネイチャーセンター
開館時間：午前9時から午後4時まで
休館日：月曜日、祝日の翌日